

学力・生活実態調査

寒冷の候、保護者の皆様方にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校教育にご支援・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、先日の図工展・オープンスクールには、多数御来校頂きまして、ありがとうございました。

さて、平成24年度の「学力・生活実態調査」の結果について、その概要をお知らせ致します。市の調査は、平成24年5月に6年生対象に実施されました。分析は、各教科とも観点別に行っています。尚、本調査は、学習の定着度や、学習意欲、家庭での学習実態を客観的に把握し、今後の指導体制や学習方法の工夫改善に役立たせるものです。今回は6年生の結果ですが、分析したことを参考にして学校と家庭が、学力向上・生活改善に向けていっそうの取り組みを進めなければなりません。今後ともご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(1) 学力調査結果の分析

◎国語

- ・「読む力」は、全国平均とほぼ同じです。文章の表現や叙述に注意しながら読み、内容を理解する力をつけていく事が大切です。
- ・「話す・聞く」は全国平均よりやや下回っています。相手の意見を聞き取り、理解しようとする力をつけていきたいと考えます。
- ・「漢字の読み」は全国平均を下回っています。漢字の由来、同じ読みの漢字、漢字を覚えて正しく使うことに課題があります。

◎社会

- ・「これからの食料生産と食生活」の内容は、よくできています。
- ・「日本の自然と特色ある地域」、「日本の水産業の特色について」は、理解し活用する力をつけることが必要です。
- ・「環境と森林の保全」については課題があり、林業等の産業をより身近にとらえられる学習が必要です。

◎算数

- ・「整数と小数のしくみ」は、全国平均をわずかに上回っています。
- ・「百分率」「円グラフ、帯グラフ」への理解の定着は、課題があります。
- ・「分数とその計算」「小数のかけ算と割り算」は、復習する必要があります。

◎理科

- ・「電磁石と電流の働きについて」は良く理解し、全国平均と同じです。
- ・「流れる水の働き」は、課題が見られます。
- ・「花のつくりと種子のでき方」、「物が水にとけるようすやきまり」は、実験観察の技能・表現に力を入れる必要があります。

(2) 生活実態調査

生活実態調査は、児童が学校や家庭での様子について、アンケート項目に答えた割合です。「算数がわかる」については、全市をやや下回っていますが、「算数の勉強は大切だと思う」は全市を上回っています。算数は少人数学習などを通して、一人ひとりの苦手意識を取り除いて自信を持たせ、意欲的に取り組んでいきたいと考えています。「読書をほとんどしない」は36.3%「学校の授業以外で勉強する」はほとんどしないと30分以内を合わせて28.6%です。基礎的な学力をつけるには、家庭学習ははずせません。時間を決めて取り組みましょう。中学校のことをどう思っているかは、「教科の内容が難しくなりそうだ」90.1%、「授業の進み方が早くなりそうだ」82.4%、「弁当が楽しみだ」78.0%となっています。(そう思う・どちらかといえばそう思うの合計)

(3) 課題に向けての、本年度の本校の取り組み

- ・朝の読書、計算・学習タイムをしています。(読み書き・計算力等の基礎学力の向上)
- ・教師の授業力向上のため、研究授業や公開授業及び研究協議会を実施しています。
- ・高学年には新学習システム教員を配置し算数の少人数指導を行い、理科、社会、家庭・総合などで教科担任制をとるなど、指導方法の工夫や充実を図り、わかる授業の実現に努めています。
- ・その他、各学年に応じたプリントや、漢字ミニテスト、ノート点検などに取り組んでいます。

(4) ご家庭へのお願い

家庭生活との関連では、「早寝」「早起」「朝ごはん」に象徴されるように、生活習慣が、学力と関係があると言われています。夜ねる時間が11時頃と答えた児童が30%います。睡眠は成長にも影響しますので、早く寝よう今一度生活を見直しましょう。また、家庭学習の時間は、低学年30分、中学年45分、高学年1時間を目安にしましょう。「家族と食事の時に会話を楽しむ」「小さい頃に絵本を読んでもらったことがある」児童が多く、安定感につながっています。今後も、ご家庭のご協力をよろしくお願ひします。